

感服し、旅行・移民したい国 = 日本1位 台湾経済誌世論

【台北2日遠矢浩司】「すごいと思う国、住みたい国はニッポン」台湾の経済雑誌「遠見」が実施した「台湾人の世界観」世論調査で、日本が「旅行したい国」「移民したい国」「感服する国」の3項目で米国を抑えて1位になった。「親日的」といわれる台湾人の姿が数字で裏付けられた形だ。

同誌が今年5月に電話調査、台湾全土の20歳以上の1071人から回答を得た。

国を回答に選ぶ質問は4問。回答は1問に3カ国選ぶ形式で、「最も感服する国」では日本が47.5ポイントで1位、続いて米国40.3ポイント、3位は中国の15.8ポイントだった。「移民したい国」は日本32.3ポイント、米国29.1ポイント、カナダ26.5ポイントの順。「旅行したい国」でも日本が52.7ポイントで2位米国に24ポイント差をつけた。「留学したい国」だけが米国に続く2位だった。

同誌は「台湾人は以前から日本好きだ」としながらも「日本や米国など限られた国を通じて国際社会をみており、台湾人は広い視点が不足」と指摘。また、中国が「感服」「旅行したい」で3位になり、「その存在がだんだん大きくなっている」としている。

一方、「台湾の国際的地位についてどう思うか」との問いに対し「低い」が56.6%を占め、中国との政治的対立により国際社会の認知度が低いことへの不満も浮き彫りになっている。

= 2006/07/03 付 西日本新聞朝刊 =

2006年07月03日00時16分

【http://www.nishinippon.co.jp/nnp/world/20060703/20060703_001.shtml】